

## ■（１７１）立ち位置で変わる言葉の意味の受け止め

政治家の耳は聞こえる話を都合良い内容に変換できるのか、とこちらの耳を疑った。集団的自衛権の憲法解釈変更をめぐる首相のことではない。２０１９年に国内で初めて開催されるラグビー・ワールドカップ（Ｗ杯）の試合誘致を正式表明した岩手県釜石市の話だ。

市が最後に市議会から意見を聞く場だった。市議は口々に「仮設住宅に住む被災者の心情」を口にした。「Ｗ杯で復興が遅れるのではないかと懸念する人が多いという。取材で回る仮設住宅でも同じだった。町内会長らの会議でも「Ｗ杯もいいが、まずは仮設住宅を早く出たい」との切実な訴えがあった。市議会では市民こぞってになっていないとの声も。復興の途上で誘致する意義が、市民に伝わっていない、と市の説明不足を批判する意見も続いた。はっきりと「開催賛成」を口にした市議は５人のうち１人だったように記者席では聞こえた。だが、市長は議会後、「反対はなかった」と語った。すべて「懸念」だと。

同じ出来事もどちらから見るかで異なる。「半分も」か「半分しか」。意見を言う人は自らの立ち位置をはっきりさせた方がいい。私自身は迷ったら、被災者側を選びたい。（山）